



雪崩・地すべり 研究センターたより

季刊・第63号
2013. 1月発行

Snow Avalanche and Landslide Research Center, Erosion and Sediment Control Research Group

主な記事 ・新年のあいさつ ・トピックス（国際雪科学ワークショップ、雪氷研究大会、妙高市市民大学講座、秋田県仙北市玉川温泉の雪崩災害現地調査など） ・転入者あいさつ

新年おめでとうございます。

昨年末に気象庁が発表した年明けの3ヶ月予報によると、「日本付近に寒気が入りやすく東日本の日本海側で降雪量は平年より多くなる」とのことです。

適量の降雪は水資源の確保や地域の観光にとって望ましいものですが、多すぎる場合は様々な影響を社会に及ぼします。短時間に降る大雪は表層雪崩（1～2月に多い）を発生させる原因となり、春先まで多量に残っている積雪は全層雪崩や融雪水による地すべりを引き起こすことがあります。住宅や農業用水などに大きな被害が出た、新潟県上越市国川の地すべりが発生したのは昨年3月でした。

融雪期に発生した土砂災害（土石流、地すべり、がけ崩れ）は過去10年間を調べると全国では合計440件ですが、このうち229件が新潟県内、しかも大半が地すべり災害です。地すべり発生の予知・予測は難しく、被害を最小限に抑えるためにはどれだけ早く斜面の異変を発見するかにかかっています。地面や雪面の亀裂、山鳴り、樹木の裂ける音、沢・井戸の濁り水などが見つかったら既に地すべりが起こり始めた可能性があります。発見したらすぐに役場や警察、消防にご連絡をお願いします。

当センターは、斜面災害による被害軽減に役立つ技術開発に取り組んで参ります。引き続き皆様のご支援をよろしく願いいたします。

トピックス

■国際雪科学ワークショップ

9月16～21日に、国際雪科学ワークショップがアメリカ合衆国アラスカ州アンカレッジにおいて開催されました。当センターからは池田が参加し、「日本で観測された降雪結晶弱層の性質」（ポスター発表）と「雪崩層の強度を考慮した積雪安定度」（口頭発表）というタイトルで研究発表しました。



■雪氷研究大会

9月23日（日）～27日（木）に、雪氷研究大会が福山市立大学（広島県福山市）で開催されました。研究発表に先立ち開催された日本雪氷学会雪崩分科会・日本雪工学会雪

崩防災委員会の合同分科会では、野呂（所長）が昨年の3月に上越市で発生した国川地すべりを融雪災害の事例として紹介しました。なお、当センターでは、表に示すタイトルで発表しました。

タイトル	発表者
水の浸透に着目した斜面と平地における積雪観測-2011-12年冬期観測結果-	池田慎二
多層構造を持つ積雪の降雨に伴う強度等の変化	伊東靖彦
秋田県仙北市玉川温泉において発生した雪崩災害の調査報告	池田慎二
新潟県糸魚川市柵口地区において発生した大規模雪崩	伊東靖彦

崩防災委員会の合同分科会では、野呂（所長）が昨年の3月に上越市で発生した国川地すべりを融雪災害の事例として紹介しました。なお、当センターでは、表に示すタイトルで発表しました。

■妙高市市民大学講座

10月16日に、妙高市市民大学講座の皆さん28人が当センターを訪れました。この講座は妙高市の課題でもある地域づくりの理解者・協力者を育むためのものであり、受講生の希望により市内にある当センターを見学し、仕事の内容について理解を深めたいとのことで計画されたそうです。見学では、丸山が土木研究所と当センターの概要、最近の研究成果などを紹介した後、土質試験室と低温実験室を視察していただきました。



■秋田県仙北市玉川温泉の雪崩災害現地調査

10月16日に、秋田県、秋田市、温泉関係者などで構成される玉川温泉地区利用適正化連絡協議会の要請により、今年の2月に発生した雪崩事故に関する2度目の現地調査を行いました。調査には当センターの野呂、池田と連絡協議会のワーキンググループ及び派遣を要請された（独）防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所の研究者が参加しました。調査では、代替地の候補として挙げられている箇所



■全国地すべりがけ崩れ対策協議会研究発表大会

11月1～2日に、平成24年度技術研修会並びに第66回研究発表大会が神戸市で開催されました。当センターからは、丸山が「地



すべり対策概斜面の地震による変動発生状況」、伊東が「雪崩対策工(雪崩減勢・防護工)の合理的設計手法の検討」と題して各々発表しました。

■寒地技術シンポジウム

10月30日～11月1日に、寒地技術シンポジウムが弘前文化センターで開催されました。当センターからは、池田による「スラブ(雪崩層)の強度を考慮した積雪安定度の検討(その2)ー1 冬期間における安定度の試算ー」と、共同研究者の奥山ボーリング(株)田中氏による「連続体モデルとVoellmy モデルによる雪崩解析結果の比較」を発表しました。



■雪崩・地すべり防止技術セミナー

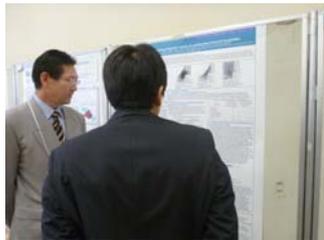
11月5日に、新潟県妙高市において「第7回雪崩・地すべり防止技術セミナー」が開催されました。午前のセミナー



では、新潟大学理学部(災害・復興科学研究所兼務)本田准教授に「近年の日本各地に大雪をもたらす大気循環場の特徴」と題して、一般財団法人 砂防・地すべり技術センターの秋山調査役(元当センター主任研究員)に「雪崩のハザードとリスクの評価について」と題して、それぞれ講演をいただきました。また、土木研究所からは火山・土石流チームの石塚上席研究員に、「深層崩壊の実態と最近の取り組みについて」紹介していただきました。当センターからは丸山が「国川地すべりについて」紹介しました。この他、午後の現場視察では、国川地すべりの現場復旧状況を視察していただきました。

■地震地すべりに関する国際シンポジウム

11月6～8日に、地震地すべりに関する国際シンポジウムが群馬県桐生市で開催されました。当センターからは、ハスパートル(前専門研究員)と中村(前交流研究員)が当センター在籍時の研究成果を発表しました。



■地すべり学会新潟支部現地検討会

11月9日に、新潟県妙高市において一平成24年融雪期に発生した地すべり災害一と題して、国川地すべり(新潟県上越市)現地検討会が開催され、午前



に現地視察、午後に検討会が行われました。検討会では当センターの丸山が座長を務め、畠田が当センターでの研究成果の一部を紹介しました。

■雪崩対策に関する現地指導

11月15日に、野呂、伊東、池田が、秋田県からの依頼を受けて、国道341号の鹿角市八幡平字柳沢～鹿角市八幡平字大場谷地(仙北市境)間の雪崩や吹雪対策に関する現地指導を行いました。現地指導では、雪崩や吹雪災害の発生が予見される箇所の現地の植生や地形の状況を確認し、対策手法について解説しました。



■地すべり対策事業に関する技術指導

11月26日に、野呂、木村、畠田が、新潟県の要請で上越市の国川地すべりの対策事業に関する技術指導を行いました。国川地すべりでは、頭部排土工事がほぼ完了し、水路などの工事が進められています。積雪期を迎えるにあたり、今後の対応について技術指導をしました。



■雪崩災害防止セミナー

12月4日に、滋賀県長浜市で第6回雪崩災害防止セミナーが開催されました(主催:土木研究所、共催:滋賀県、滋賀県砂防協会、後援:国土交通省近畿地方整備局)。セミナーでは、新潟大学 災害・復興科学研究所 和泉教授による「滋賀県における雪崩災害と雪氷利用の歴史」の講演に続いて、寒地土木研究所 雪氷チームと当センターの伊東(道路雪崩対策の課題と研究への取り組み)が話題提供をしました。



■転入者あいさつ

■受入研究員 Willi Pose (ヴィリー ポーゼ)

私はドイツのイルメナウ工科大学で工業物理学を学んでいます。大学に入る前には自動車メーカーや“fulfilled community service”で勤務した経験があります。私は雪崩と雪について学びたいと思い妙高に来ました。日本の研究環境と生活様式は大変興味深いです。日本において学ぶ機会を与えていただいたこと、温かく迎えていただいたことに感謝いたします。



雪崩・地すべり研究センターに関する記事は、ホームページにも掲載してありますので、ご覧下さい。

発行:独立行政法人 土木研究所 つくば中央研究所
土砂管理研究グループ 雪崩・地すべり研究センター
住所:〒944-0051 新潟県妙高市錦町2-6-8
TEL:0255-72-4131 FAX:0255-72-9629 URL: <http://www.pwri.go.jp>
掲載内容は現時点までの調査結果等に基づいています。今後の調査研究により内容の一部または全部に変更が生じる場合があることをご了承下さい。